

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 8 月 20 日 更新

事務事業名		放課後児童クラブ障害児受入事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2 福祉の健康				所属部	こども部	課長名	衛藤 和博
	施 策	4 子育て支援の充実				所属課	こども未来課	担当者名	高鷹 博和
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	保育班	(内線)	1621
予算科目		会計一般	款 3	項 2	目 4	事業連番 11442	根拠法令	合志市学童クラブ等障害児受入事業実施要綱	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市内放課後児童クラブにおいて障害のある児童を受入れる体制を整備することを目的に、放課後児童クラブ運営者に専門知識等を有する障がい児対応支援員の配置を委託する事業。 なお、1クラブにおいて3人以上障がい児を受け入れる場合は、2名以上の障がい児対応支援員を配置する必要があるため、委託料を増額している。
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤支出負担行為 ⑤実績報告書・請求書受付、審査⑥支出命令書
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	毎年各クラブで障がいを持ったこどもを受け入れているため、クラブ運営者から、支援員確保のために事業を実施継続して欲しいとの意見が出ている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 市内放課後児童クラブ28クラブ全てに委託した。 28クラブ中、15クラブが3人以上の障がい児を受け入れて運営を行った。		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 障がい児を受け入れる市内放課後児童クラブと委託契約を行い、専門的な知識を有した放課後児童支援員を配置する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 放課後学童クラブ数	クラブ	南ヶ丘小第3・4クラブ、西南小第4・5クラブ開所及び障がい児を3人以上受け入れているクラブ数増に伴う委託費の増
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
放課後児童クラブが受け入れている障がい児数	人	→ ア: 放課後児童クラブの受入れ障がい児数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
安心して子育てができる。	クラブ	→ ア: 障がい児を受け入れている放課後児童クラブ数
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
障がい児を受け入れている放課後児童クラブに対して実施する事業であるため、放課後児童クラブ数とした。		0

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標		アイ クラブ	29	28	28	28	32	32	32	32	
② 対象指標		アイ 人	48	60	60	68	65	65	65	65	
③ 成果指標		アイ クラブ	25	26	28	28	30	30	30	30	
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円	28,688	24,776	26,080	27,754	33,425	26,080	26,080	26,080
		都道府県支出金	千円	22,801	23,138	26,080	27,753	33,425	26,080	26,080	26,080
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	16,915	21,502	26,080	27,756	33,429	26,080	26,080	26,080
	(A) 事業費計	千円	68,404	69,416	78,240	83,263	100,279	78,240	78,240	78,240	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	20	100	150	100	150	150	150	150
		(B)人件費計	千円	78	380	597	364	597	597	597	597
トータルコスト(A)+(B)		千円	68,482	69,796	78,837	83,627	100,876	78,837	78,837	78,837	

事務事業名	放課後児童クラブ障害児受入事業	所属部	こども部	所属課	こども未来課
-------	-----------------	-----	------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 5 年度的事後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 障がい児を受け入れている放課後児童クラブ全てに委託した。
	② 6 年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 障がい児を受け入れている放課後児童クラブ全てに委託するため目標達成の見込みがある。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 障がい児の受け入れ等に伴う県主催指導員研修等が年数回実施され、参加することによって指導員の質の向上に努めた。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 放課後児童クラブで障害のある児童の預かりを行う事業であるため他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 委託料は国の定める基準以内で設定している。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の職員で対応している。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の対象は障がい児を受け入れるクラブであるため、当該事業を行うことでクラブ全体の子どもの健全育成につながり公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 支援を要する児童の預かりであるため、責任の度合いが大きく役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

障がい児や発達障害の恐れがある児童がいる学童クラブに、県が実施する講習会に参加した専門知識を要する指導員を配置することで適切な支援ができた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																									
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善）					<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																												
		削減	維持	増加																										
成果	向上																													
	維持																													
	低下																													
☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）																														
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																														

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策